



①雄綱を担ぎ、道ジュネーをする前村渠の皆さん。②・③子ども会による鼓灯籠(チヂンドゥール)。④綱の先頭で、綱かつぎを指揮するシタク。⑤両綱を結合するために綱寄せをする両陣営。⑥・⑦勝利を収め喜ぶ後村渠の皆さん。⑧両陣営の棒もちによるシーチー(体を激しくぶつける競技)。⑨旗頭のガーイー(競い合い)で会場を盛り上げる。⑩綱引き前に同区婦人の皆さんによる前舞い(メーモーイ)が行われ、相手陣営をはやし立てる。⑪一斉に綱を引く区民と来場者。



5年に1度開催される宜野湾区大綱引きが、7月30日(日)に沖縄国際大学野球場にて行われた。戦時中の混乱で途絶えてから、2007年に66年ぶりに復活した同大綱引きは、戦後3回目の開催となる。

雌綱・雄綱はそれぞれ30mの長さがあり、6月から約1カ月半かけてワラから作成。そんな両綱を道ジュネーを経て会場へ運び、カナチ棒を入れ結合させる。同区の特徴である、地上ではなく、六尺棒で綱の頭部を押し上げ、頭上でカナチ棒を入れ、両綱を結合した瞬間、一斉に勝負が始まった。勝負は約3分間の激闘となり、今年は、前回に引き続き、後村渠に軍配が上がった。

勝負後は、勝組の綱で蛇行し祝う「戻り綱(ムルイチナ)」や、同区の婦人の皆さんやOB会によるサンクワチャー、沖縄国際大学琉球芸能文学研究会などの余興で綱引き後の余韻を楽しんだ。